

《薬局サーベイランスコメント》

『今シーズンのインフルエンザ流行の立ち上がりは 2014/2015 年シーズンと同水準と
なっているが、今週（第 51 週）は患者数が急増することが予想される』

2016 年 12 月 20 日
済生会中津病院感染管理室
安井 良則

今シーズン（2016/2017 年シーズン）の 2016 年第 50 週（12 月 12 日～12 月 18 日）の全国のインフルエンザ推定患者数は、薬局サーベイランスによると 192,913 であり、第 33 週以降 18 週間連続して増加が続いているものの、第 47 週以降の流行の立ち上がり方が緩やかになってきていたことを反映して、第 50 週の推定患者数は 2014/2015 年シーズンの第 50 週の値 226,156 を下回りました（図 1）。一方、休日明けの第 51 週（今週）の月曜日（12 月 19 日）の推定患者数は 67,060 と前週の月曜日の値 35,406 よりも急増しており、第 51 週の患者数は大幅に増加する可能性が高いです。

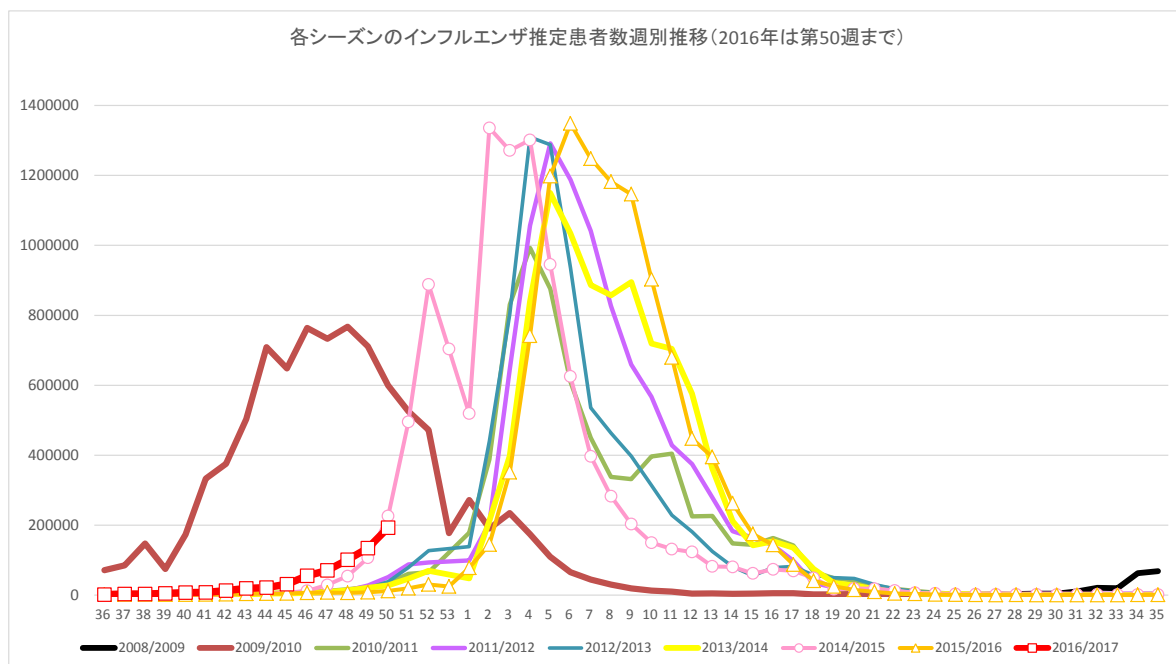


図 1. 過去 6 シーズンと今シーズン（2016/2017 シーズン）のインフルエンザ推定患者数の週別推移

各都道府県別の第 50 週の人口 1 万人当たりの 1 週間の推定受診者数をみると、栃木県、北海道、富山県、福井県、岩手県、奈良県、東京都、秋田県、岐阜県、新潟県、広島県、神奈川県、千葉県、兵庫県の順となっています。

2016年第36週から第49週までの累積の推定患者数は666,552であり、日本の人口推計値（2016年11月1日現在、1億2695万人）で換算すると、約200人に1人がこれまでにインフルエンザに罹患したこととなります。年齢群別では10～14歳（14.3%）、5～9歳（13.8%）、40～49歳（12.7%）、30～39歳（11.9%）、20～29歳（10.1%）、15～19歳（9.4%）、50～59歳（8.4%）、0～4歳（7.7%）の順となっています。5～14歳の年齢群の増加が目立ちます（図2）。

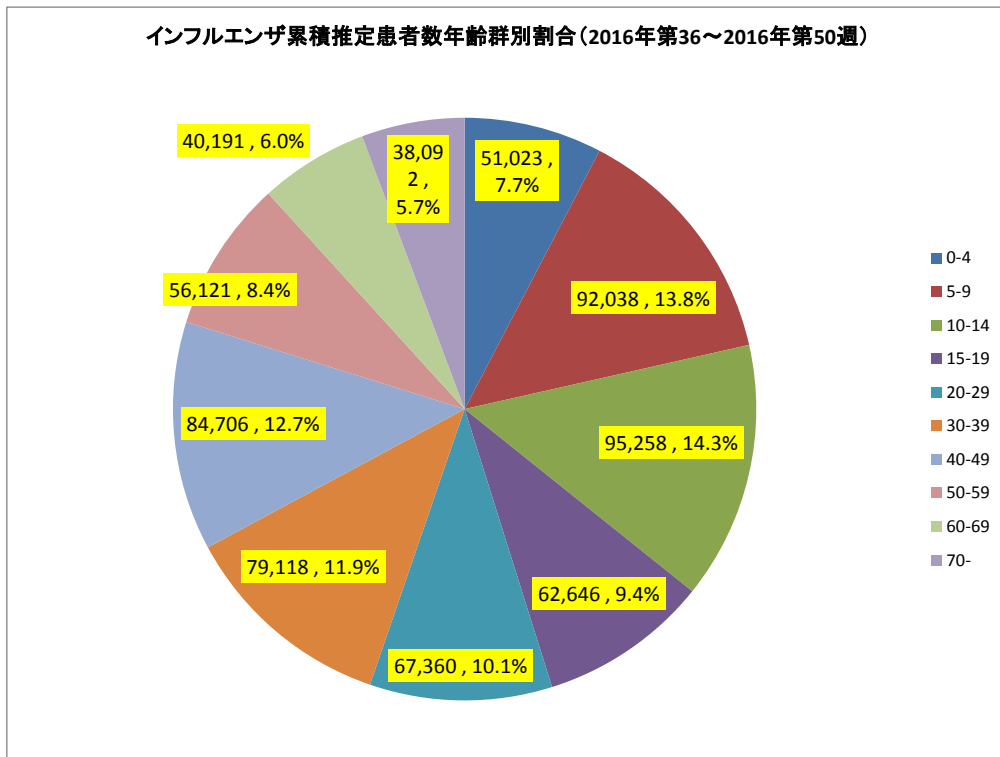


図2. インフルエンザ累積推定患者数年齢群別割合（2016年第36～2016年第50週、累積推定患者数=666,552）

国立感染症研究所感染症疫学センターの病原微生物情報（<https://nesid3g.mhlw.go.jp/Byogentai/Pdf/data2j.pdf>）によると、今シーズンこれまでのインフルエンザ患者由来検体から検出されたインフルエンザウイルス（503検体解析）は、A/H3（A香港）亜型が86.7%と大半を占めており、次いでA/H1pdm 11.3%、B型2.0%の順となっています（図3）。

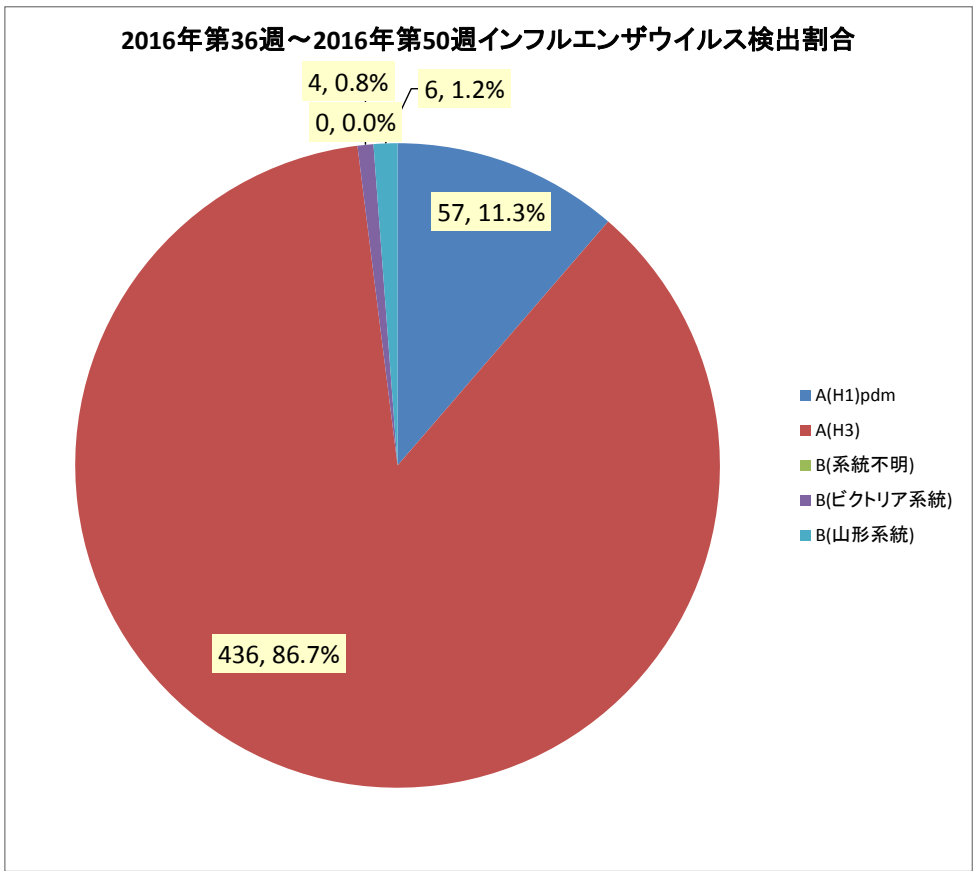


図3. 2016年第36～2016年第50週インフルエンザウイルス検出割合 (総検出数=503)

今シーズンのインフルエンザ流行の立ち上がりは 2014/2015 年シーズンと同水準と なっていますが、今週 (第 51 週) は患者数が急増することが予想されます。今後とも インフルエンザの患者発生の推移には注意が必要です。